令和８年　第９回砂川市教育委員会会議定例会　会議録

日　　時　　令和８年９月29日（火）　午前10時00分～午前11時25分

場　　所　　市役所　３階会議室

出 席 者　　板垣教育長、平間教育長職務代理者、住委員、皆上委員、坪江委員
説 明 員　　玉川教育次長、神島指導参事、早川学務課長、篠崎学校再編課長、
名久井社会教育課長、小島スポーツ振興課長、上山公民館長、工藤図書館長、
櫻田学校給食センター所長
記　　録　　長谷川総務係長

審議内容

開　会（教育長進行）　午前10時00分
１．会議録署名委員の指名　　住委員

２．前回会議録の承認
令和８年８月25日（火）開催の「第８回砂川市教育委員会会議定例会会議録」について承認。

３．報告第１号　教育長報告について

◇　所管業務について
９月２日（水）開催の「空知管内公立小中学校教職員人事推進会議（兼）女性教職員活躍推進会議」について報告。

（学務課）
学務課長より、「第２回砂川市高等学校教育を考える会について」など６件について報告。

（学校再編課）
学校再編課長より、「砂川学園開校記念事業実行委員会について」など２件について報告。

（社会教育課）
社会教育課長より、「生涯学習市民の集い「いってみよう やってみよう 2026」について」報告。

（スポーツ振興課）

スポーツ振興課長より、「学校プール開放事業について」など２件について報告。

（公民館）

公民館長より、「市民大学（第４回）について」報告。

（図書館）

図書館長より、「蔵書点検について」報告。

質問　教職員人事の状況について

答弁　これから正式な人事協議に入っていくが、空知管内で一番大きい義務教育学校で今後も良い状況を続けていくため、校長とも協議しながら、教育局と人事協議を進めてまいりたい。

質問　旧小中学校に残った備品の取扱いについて

答弁　残った備品については基本的に処分する方向で考えているが、近隣の学校から備品譲渡についての問い合わせがあったことから、現在その取扱いについて検討中である。

質問　生涯学習市民の集いにおいて発生した事故について

答弁　体験学習の一つとして、公民館駐車場でバイクの試乗体験が行われており、児童が後部座席から降りる際によろけたか、バイクに寄り掛かったことにより、右足の脛がマフラーに接触して火傷をしたという事故である。ブースにいる方が患部を水で冷やすという措置をとったが、本部が事実を把握したのは事業終了後であった。把握した時点で事務局から怪我をされた児童の保護者に連絡し、今後の対応について協議した。その後も連日状況確認したが、保護者の意向としては、このまま様子を見れば問題ないという診断を受けたため、その後の対応は特段求めないということであったことから、社会教育委員の会議でも共有し、今回の件は終了とした。10月の社会教育委員の会議において事業検証を行うことから、今後の体制についても考えてまいりたい。

――――　　了承　　――――

４．報告第２号　議会報告について

教育次長より、９月７日から10日までの会期で開催された第３回市議会定例会において、一般会計・特別会計補正予算、条例の一部を改正する条例の制定、また、教育委員会関係では、教育委員会委員の任命同意など、20件の議案が審議され、一般質問として「学校統廃合による市政への影響と市の対応について」の答弁内容を報告し、いずれも提案のとおり議決された。

――――　　了承　　――――

５．報告第３号　教育委員会職員の任用について

学務課長より、北海道教育委員会の会計年度任用職員として、教員業務支援員１人を任用し、砂川学園に配置したことを報告。また、学務課会計年度任用職員として、教員業務補助員１人、特別支援学級生活支援員１人を任用したことを報告。

質問　会計年度任用職員の年齢について

答弁　教員業務支援員が30代、教員業務補助員が40代、特別支援学級生活支援員が50代である。

――――　　了承　　――――

６．議案第１号　教育委員会職員の任用について

学務課長より、学務課会計年度任用職員として、特別支援学級生活支援員１人を任用することについて提案。

質問　任用予定者の年齢及び経歴について

答弁　年齢は30代であり、子どもたちの居場所づくりに関わる仕事をしていることから、即戦力として考えている。

――――　　決定　　――――

７．議案第２号　砂川市教育委員会の権限に属する事務の外部評価会議委員の委嘱について

学務課長より、砂川市教育委員会の権限に属する事務の外部評価会議委員として、５人の委員を委嘱することについて提案。

――――　　決定　　――――

８．その他

質問　砂川学園の時間割及び特別教室の割り当ての現状について

答弁　前期課程と後期課程に時間割係が配置されており、それぞれ調整しながら時間割を組んでいる。今のところ学校からは、時間割の調整が大変であるといった話は出ていない。
特別教室の割り当てについては、家庭科室や美術室は使用する学年や時間数も少ないので余裕があるが、音楽室と体育館は隙間なく埋まるような形となった。ただ、特別教室の空きがなくて時間割を組めないといった話は出ておらず、何とかやりくりしてもらえていると感じている。

質問　砂川学園の中休みについて

答弁　日課のずれにより、チャイムを始まりと真ん中と終わりの３回ぐらいしか鳴らせないため、それ以外は時計を見て行動をするという形になっているが、かなり定着してきている。特に混乱しやすいのは、６年生以下にしかない中休みの時間であり、学校の対応について確認したところ、後期課程のテスト期間中は声のボリュームを抑えるなどしているが、子どもたちも少しずつ慣れてきて、上手くやっているとのことであった。ただ、日課が複雑なことにより、先生の動きも複雑になっているため、もう少しシンプルにしなければいけないという話を校長から聞いているので、その辺は１年間やっていく中で、次年度の改善点として出てきたところは見直していきたいと考えている。

次回の令和８年第10回砂川市教育委員会会議定例会を10月20日（火）午前10時00分から開催することについて承認。

――― 閉　　会 ―――　午前11時25分

以上